

羅針盤



進路だより No. 12

令和3年11月29日

◇家庭とクラスをつなぐこの進路だよりは必ず保護者の方にも見せてください。

◆府内公立高校の志望調査結果より

今回、3年生やその保護者の方に進路選択の際の資料としてもらうため、11月現在の京都府下全域の進路希望調査集計結果がこのあと、各新聞に掲載される予定です。本日、3年生の皆さんには詳細な『令和4年3月中学校及び特別支援学校中学部等卒業予定者の進路希望状況』を配布しました。

さて、この発表を見てどう思いましたか？ 定員と志願者の数を見て、どこが人気が高いかなどいろいろな思いがめぐっていることと思います。

まず京都市・乙訓通学圏の公立高校の受検を希望する生徒 7, 331人の内、実に約9割の6, 603人の生徒が「前期選抜」の受検を希望しています。普通科の中には倍率が7倍を超える高校もありました（鴨沂7. 65倍 桂7. 12倍）。

さてみなさんはこの発表を見て、12月の個人懇談に備え、考えをまとめておく必要があります。

今回のこの情報だけで、この数字だけを見て一喜一憂したり、倍率に左右されてしまうことは、あまり感心できません。自分が本当に行きたい方向性はどうかを第一に、次の点に配慮しながら、12月個人懇談に向けて、自分の気持ちを固めていきましょう。

① 前期選抜は高倍率…。

多くが志望する普通科において、前期選抜では定員の30%しか募集しません。

したがって、高倍率となります。どこの高校も、厳しいことは言うまでもありません。

② 中期選抜は「第1順位」が命。

3月の中期選抜では、残りの定員の90%をそのA校を第1順位で希望した者の中から選ぶ（ステップ1）、残りの10%を他のB校を第1希望で不合格となり第2順位でA校を希望した者と併せて判定（ステップ2）します。このとき、ステップ1の合格最低点より、ステップ2の方が高い得点を要求される場合があります。この逆転現象は、希望者が多いほど小さく、定員ギリギリの学校ほど大きくなります。すなわち、「第2順位は、希望者の少ない〇〇校にしておこう」という考えは、あまり意味がない事に注意しましょう。中期選抜は、「第1順位で合格」が基本です

③ 「第二志望」は第一志望が決まってから、なお欠員がある場合にみまます。定員割れしそうにない高校を第二志望に書いても、あまり意味がないこととなります。昨年度も数校の実施でした。

④ いくつかの学校で、希望者が定員に満たない学校があります。だからといって全員合格になるというわけではありません。それが選抜(入試)を実施する理由なのです。

⑤ 公立の志望は、「すべて専願」となります。合格したら、必ず入学するということです。自分が本当に行きたい高校を希望しているか、また(併願で受ける時の)私学との希望順位をしっかりと考えておくことが大切になります。

◎これらのことをすべて考慮したうえで、またご家庭でしっかり話をしてもらった上で、

→ 11月に提出した進路希望調査の変更を希望する場合、

①まず担任の先生に話をしてください。担任の先生と相談し、また保護者の方に確認をしてもらいます。

②必要な人に、進路希望調査プリントを一旦返却します。訂正し、押印をしてもらい再提出してください。 ※切は12月2日(木) 期限厳守のこと!

※裏面に続く

※裏面より続く

これをもとに資料を作成し、みなさんの進路希望について、3学年すべての先生で、検討会をします。そして15日(水)からの三者懇談会に備えます。

三者懇談会では、希望進路の最終確認、そして希望進路達成に向けてどのようにがんばっていくかの確認をしてもらいます。いよいよ明日から12月(師走)となります。本当のラストスパートです。みんな気を引き締めがんばっていきましょう。

「京都府高校生等修学支援事業令和4年度貸与（貸付）予約申請」について

上記の予約申請の最終締切日は、令和3年12月20日（月）ですが、申請書を府庁へ提出してから申請受理・手続き完了までおよそ1ヶ月余りかかることがあります。また申請には厳正な審査があるため、〆切間近になって駆け込みで書類を提出しても「書類不備」等で再度申請しなければならない場合があります。早めに申請手続きをされることをお勧めします。よろしくお願ひします。

◎ **「私学入試まで あと72日」「公立前期選抜まで あと78日」**
「公立中期選抜まで あと97日」